

久我山だより

令和6年1月31日

杉並区立久我山小学校

電話(3331)3631 FAX(3247)8415

URL <http://www.suginami-school.ed.jp/kugayamashou/>

「特別の教科 道徳」と家庭教育

副校長 吉川 昇

道徳の教科書に必ずといっていいほど登場する『手品師』という話があります。『あるところに腕はいいのですが、売れない手品師がいます。暮らし向きは楽ではなく、その日のパンを買うのもやっとの有様です。街角で、寂しそうにしている少年に出会いました。聞けばお父さんが死んだあと、お母さんが働きに出たままずっと帰ってこないとのこと。手品師は、手品を見せて少年を喜ばせ勇気づけました。「明日も来てくれる?」という少年に手品師は大きくうなずきました。その晩、手品師のもとに、大きなチャンスが舞い込んできます。急病で倒れた手品師の代わりに大きな劇場で出演してくれないかという依頼でした。長年の夢が叶うチャンスです。出演のためには、今日の夜の飛行機に乗らねばなりません…。』

先日は、道徳地区公開講座への参観をありがとうございました。3校時には、秀明大学教授の生形先生が「『特別の教科 道徳』の特徴と地域、家庭でできること」というテーマで講演をされました。講演の内容にあった「家庭でできること」を紹介いたします。

- ① 「自分だったら」と相手の立場を考える習慣を付けさせること。思いやりの心を育てるには、「相手の立場」で考える習慣を付けることが大切です。
- ② 子どもが「考える時間」をしっかりとること。そして子どもの話を丁寧に聞き、受け止めてあげてください。

- ③ 相手の考えを受け入れること。家族でたくさんお話をすることが大切です。食事の時間でのコミュニケーションを大切にしてください。
- ④ 他の子と比べないこと。心の成長には時間がかかるもの。その子にとってどれだけ変容があったかを見取って、認めてあげることが大切です。

ご家庭でも、様々な話題をもち、四つの視点でお子さんとコミュニケーションをとっていただけたらと思います。

最初に紹介しました『手品師』の最後の場面は、街角で手品をする手品師と喜ぶ少年の姿でお話は終わります。

『手品師』を授業で扱うと様々な考えが教室内に飛び交います。「有名になるチャンスだったのに、手品師は後悔しないのかな」「それよりも男の子の約束を守ったことが大事。」「一人の観客を大事にする人には、きっとまたチャンスがくる」などなど。

主人公に共感しながら、「自分だったら」と真剣に考え、次に少年の立場に位置を変え、どう行動するのが正解かと考えていきます。友達の意見を聞き、気づきを得る子、考えを発展させる子もいます。

素直で真っ直ぐな心をもった久我山小の子たちの感性を大切に、これからも職員一同、教育に邁進してまいります。